

IAMD 共同推進を確認

「射撃統制」統合も 日米豪印で対中包囲網

敵基地攻撃と防空・ミサイル防衛を一体で運用する「統合防空・ミサイル防衛」(IAMD)をめぐり、中国問題を形成するため、日米豪印の松組み「クアッド」が共謀してIAMDを推進する方針を確認してしまったことが明らかになりました。米朝鮮の機関誌『航空宇宙戦レポート』2022年夏号に掲載された公式論文「マンド太平洋軍のIAMDビジョン2022」に記載されました。

♦ 関連の面

国論文は日本共産党の吉田和夫議員が「貿易の衆院予算委員会で明らかにしたものの、政府は昨年末に

閣議決定した安保改憲でIAMDを導入し、敵基地攻撃能力（反撃能力）を運用する方針を示しました

が、岸田文雄首相は国論文で、「米のIAMDを増加しない」と答弁しました。これが「テラスである」と

が浮き彫りになりました。

論文は、日本列島から「

いつぱいにじたる「第一列島線」で中国を抑えなければ、ノルムなど老練の「第二列島線」も越えてしまつ

と危機感を表明。これを阻

止するため、米国と同盟国

が一体になつたIAMDの構築が不可欠だとしてま

す。

論文は21年の月にハイ

で行われた日米豪印首脳会談で、「ために集まつた」と明記。あり方として、「シーラン」が米軍の射撃統制を受けて訓練に触れ、「今後は中國・国会議員は訓練監督相（当時）が出席していました。必要な強調。警戒機動がめることを目的として、IAMDにおける訓練目標まで、あるるAMDの機能をいかむにむかふる将来的な同盟国との協力の情報を共有をあげていま

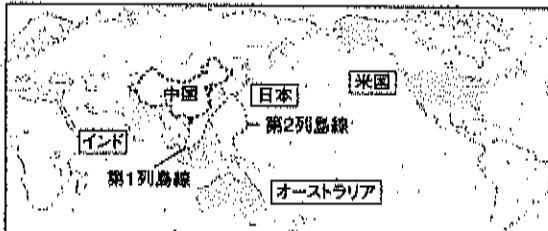
す。

米のIAMDは先制攻撃を前提としています。攻撃対象も軍事基地といいまじめ、標的統制機能（政府中枢など）やインフラなどを攻撃にあたっています。自衛隊

です。

す。中でも最大のが、ミサイル攻撃などをむづく敵機の角度や方向を走める「射撃統制」の共同・統合です。手順はインド太平洋事が定めるとしています。米議院は先制攻撃を前提としています。攻撃対象も軍事基地といいまじめ、標的統制機能（政府中枢など）やインフラなどを攻撃にあたっています。自衛隊

です。



「独創の指揮系統で、つせじに発射する。」路に立つてあります。
「わく」。日本政府は、「独創の指揮系統」
これまで、米国の要求に応じて、イランやアフ
ガニスタンでの先制攻撃戦争に自衛隊を派兵
した際も、多国籍軍の直接の指揮下に入らな
いなど、「他国の武力行使と一体化しない」と
いってきました。しかし、米軍主導の整備作業を図
つてきました。

（IAMD）に組み込まれれば、一面報道の
ようだ、あるいは情報が共有・統合され、完全に「融和」されてし
まいます。

米軍が照準を定め、自衛隊が南西諸島に並ぶた敵墓地攻撃（サ
イド）を中国に向かって、鐵は、まさに重大な攻
略を、まさに重大な攻

は完全に消え去り、「自由で開かれたイン
ド太平洋」を守るために称して、米本十防
衛のための戦力の一部

「独創の判断」の余地

「独創の指揮系統」

参加へ着々

「独創の指揮系統」

「独創の指揮系統」

た」と明言。むろん防

同じ構造に

重要な同盟国である印

度、「統合防空・ミサイル防衛」に係る日米

が書かれており、日本独

自でIAMDを運用す

るといふのです。

米は当初から、日本

きない」と照記してい

るといふのです。

連用協議」と題した文

にしてきました。米イ

「IAMD」の文書を作成しました。文

書は18年3月末、保存

地攻撃能力の保有を前

14年に「IAMDセ

方針は変わらない」と

期間わずか1年で廃棄

提としない形での導入

られており、詳細は隠

されています。

今回の安保法文書改定

してからJUを物語っ

米「日本は不可欠」

IAMD構想で名指し

法解釈との整合性を図
つてきました。しか

し、米軍主導の「統合

防空・ミサイル防衛」

（IAMD）に組み込

まれれば、一面報道の

よつて、あらわる情報

が共有・統合され、完

全に「融和」されてし

ます。

こんな未来を許して

いいのか。憲法制定以

て、敵の攻撃網を先制

を訪問し、同月25日の

攻撃する考え方をあから

いってきた日本の平和主

D導入を検討していく

AAMDへの参加を想定

内で実施されます。

ために防衛省は、18

年冬号に掲載された論

た。15年11月には、中

大綱改定時にIAM

ド導入を検討していく

IAMDへの参加資

格」（日本共産党の志

したが、当時は敵墓地

攻撃能力の保有に踏み

位和大蔵閣、1月31

日記載）なので

「IAMD」がおかしく、断

す。

（竹下田）